

中野市の市名・通称名を考えるシンポジウム  
～市の魅力度と知名度向上を探る～  
「パネルディスカッション発言録」

- 1 日時  
平成 30 年 3 月 27 日（火）18：00～19：50
- 2 場所  
市役所本庁舎 会議室 41.42.43
- 3 開会（進行：総務部長）  
主催者あいさつ：市長 池田 茂
- 4 シンポジウム  
【第 1 部】基調講演  
「地域の魅力度と知名度向上を考えるための論点」  
浅岡 隆裕 氏 立正大学 文学部社会学科 准教授  
  
【第 2 部】パネルディスカッション  
テーマ「中野市の市名・通称名を考える～市の魅力度と知名度向上を探る～」  
コーディネーター  
浅岡 隆裕 氏 立正大学 文学部社会学科 准教授  
パネリスト  
押鐘 富士雄 氏 首都圏ふるさと信州中野会 会長  
山田 彰一 氏 信州中野商工会議所 会頭  
赤松 頼子 氏 中野市地域おこし協力隊
- 5 出席者  
合計 57 名  
市民 29 名  
職員 28 名  
(報道関係 7 名 SBC、ABN、北信ケーブルTV、北信ローカル)
- 6 アンケート  
配布数 57 票（来場者数）  
回収数 37 票  
回収率 64.9%

## 開会（午後 6 時 00 分）

あいさつ 市長：池田茂

みなさんこんばんは。中野市長の池田茂でございます。

ようやく春が近づいてまいりました。今日あたりは大変花粉が飛んでおりまして、マスクをされている方もいらっしゃるかもしれませんが、そんな中大勢の皆さんにお集まりをいただきましてありがとうございます。

この「中野市の市名・通称名を考えるシンポジウム」、実は、議会等でも質問が出たり、また私が東京等の首都圏に行った際にも、関係者の皆様から、「中野市」という地名がわかりにくいと。時あたかも今年で 4 年目になりますが、地方創生総合戦略の中で各都市が地域のブランド化、地域を全体に知ってもらう中での地域活性というような形で、いろいろなイベントに行っているわけでございます。そんな中におきまして、中野市のブランド戦略の一環として今日のシンポジウムを開催させていただくことになりました。

本日ご出演される皆様方におかれましては、遠路はるばるお越しいただきまして心から御礼申し上げます。ありがとうございます。

今申し上げましたが、首都圏に参りますと中野市内でもそうですが、御商売をされている方、事業者の皆さん、中野市出身者の方、中野市出身ではないんですけれども中野市をこよなく愛していただきまして、支えていただいている皆さまにとりまして、市の位置、場所等の特定が大変煩わしい、と私に直接お話いただく機会が多々ございます。

私自身も横浜市に長らくおりましたけれども、中野市をどう説明していいのか、というような形で、懇切丁寧に、一旦話題をそこに転じて話すような会話をしたことを覚えています。

一方で、昨年 7 月に実施しました市民満足度調査におきまして、「市の名称についてどう思うか」という問いかけをした項目がございましたが、その中では 4 分の 3 以上に当たる皆様が、「市の名称は中野市のままでいい」という回答でございました。

こうしたいろいろな動きの中で、中野市に住まう皆さんの中には、中野市の歴史的、そして文化的な要素や、「中野市」という地域に対する愛着を持って暮らしている方がたくさんいらっしゃるというふうにも推察出来ます。

そこで本日は、市の名称に賛成、反対ということではなくて、まずは市民の皆様が市の名称についてどう思っているのか、それぞれのお立場での話も聞けようかと思いますが、その意思研推、過去に実施しました市民アンケート等も分析しつつ、また知名度の低さにつきましても外部的な視点で中野市が取り上げられているような現状を把握するため、基調講演でお話をいただくこととなっています。また、パネルディスカッションでは、「中野市の市名・通称名を考える～市の魅力度と知名度向上を探る～」ということをテーマに、中野市に関わりのある 3 名の方をパネリストにお招きいたしまして、それぞれの視点から市名や通称名について、どうお考えになるのかお聞きすることとしています。いずれにしても、皆様方の情報共有によりまして、どう考えるかというこの渦が大きく広がるのが、この市名に関するいろいろな意味合いでの重要な課程、ステップに出来るものだと考えている次第です。このシンポジウムによりまして、情報共有がいちだんと進みまして、様々な立場の違いを認めつつ、意見討議、また相互理解することで一層中野市の発展につながることを期待いたしまして開会のあいさつとさせていただきます。下世話な言葉で申し上げますと、

本日がキックオフということになるかと思いますが、そういうことで情報共有ということで、皆様にこの時間、短い時間ではございますが、有意義な時間になりますこと心より願いましてごあいさつとさせていただきます。本日はどうもありがとうございます。

### **基調講演（午後 6 時 05 分から午後 6 時 35 分）**

「地域の魅力度と知名度向上を考えるための論点」

### **パネルディスカッション（午後 6 時 38 分から午後 7 時 50 分）**

「中野市の市名・通称名を考える～市の魅力度と知名度向上を探る～」

#### **【浅岡氏】**

**自己紹介** 以下の3点含む内容

- ①中野市との関わりあい②市名・通称名についてどう考えているのか
- ③どうしてそう考えるのか理由

#### **論点**

- 1 中野市の現状を踏まえると、市名変更は必要なのか  
「通称名「信州中野」でアピールする」というのがある中で、それだけでは不十分なのか
- 2 市民満足度調査の結果を見る限り、市名変更の機運はあまり高まっていない現状についてこれをどうみるのか、今後についてどうしていくのか

#### **【押鐘氏】**

66歳の青春を生きています。

私が中野に望むところは、こんなにいいところはないので、とにかくここに生まれ育ってよかったと、皆さんそういうふうに思ってください。高社ももっと素敵になります。空も雲も、川もみんな素敵になります。今でも中野が好きに決まっていますが、もっと好きになってください。私は中野に戻りますと、高社とも口づけをします。箱山も抱きしめています。高社は誰の所有か知っていますか。押鐘富士雄の所有なんです。自分のものだと思った方が素敵でしょう。ゴミも拾いますよ。咲いている花もきれいだ。警察にもつかまらないと。もしかしたら、そういう調子で頑張れば、落選はしますが市会議員くらいにはなれるかもしれない。こんなふうに思ってるわけです。

私は、高校は須坂西高校、それから東京に出て中央大学、それからちょっといろんなことがあります。昭和 41 年に三笠書房に入社いたしまして 2 年後に、3 回目の倒産をしたことがあります。これを 3 年間で僕が再建をしまして、自分の話ですから言いますと、30 何年間、僕は銀行に行ったことがない。純資産 200 億円を超える会社を経営しております。人と変わったところがあるとするならば、会社の隣に 200 数十台を超える駐車場を持っているオーナーが今でも定期で通っているんです。居酒屋が好きだ。経費削減ではないんです。それの方が楽しいんです。そういう日本変人・奇人協会の理事長兼会長を兼務しております、これを神様に相談したら、来世にやって来てもそれは継続してあげるよ、ということになっています。まじめすぎるくらいの話はこのくらいにいたします。

中野市の市名・通称名をどう考えるか、ということですが、これはもう、私に言わせると、ああだこうだ考える余地はない。もし、このまま「中野市」にするのであるならば、私は「中野」にはこれから来ません。「信州中野」に決まっています。「中野」に執着があるなんて言ったら、私は平岡ですが、科野、倭などで生まれた人はどうなるんですか。そこに執着を持っているはずじゃないですか。私は、「信州中野」に変えていただいて、法律的に許されるならば「信州中野市」にして、通称名は「中野」でいいんですよ。「平岡竹原」「科野深沢」というようなぐあいに歴史を残すんですよ。通称は「竹原」でいいんです。しかし、「平岡竹原」によって歴史は残る。書き物だけそうすればいいんです。印刷物だけで。そういうちょっとした配慮ができるかどうかということがこの街を決定するんじゃないかな。とにかく中野というのは魅力にあふれているわけでありまして、経済条件、いろんな条件が非常にいい。ただ、日本一、長野県一を徹底して頑張る。例えばバラ公園、私もよくは知りませんが、北海道と鹿児島県にもそういう大きなものがあるようですが、あのバラ公園の隣を買収して、そんなものは今、大した金がかかりません。なんでしたら、私が借金をしてもいいですよ。とにかく日本一をつくるんです。長野県一を。要するに普通のバラ公園ではなくて、そこは市民の皆さん、場合によっては外の人でもいい、1千人でも、1万人でも通い合って、その近くに来た時にはちょっと草をとるとか、タンポポの花を植えてもいいし、そうやって日本中に類のない山野草公園。歯軸がバラでなければいけませんけれども、とにかく長野県一、日本に類の無いような公園をつくらないと、決定的効果は出ません。ちょっともう持論です。そういうことでありますから、このくらいにさせていただきますが、私は酒が好きですから、酒の席にいろいろ議論させていただいたらありがたいと思います。ありがとうございました。

#### 【浅岡氏】

先ほど私は、熟議という話をしたのですが、熟議は必要なくて、とにかく考えている余地はない、早く変えた方がいいというお話かなと思います。

それと、長野県一のを早く作って、それを徹底させるということで、市の施策ということのお話もあったと思います。

#### 【押鐘氏】

もう一言申し上げます。

私がもし須坂の市長であったら「信州須坂市」に変えます。飯山の市長であるならば「信州飯山市」にします。「信州小布施町」にします。そうしたらどうなるんですか。終わります。

#### 【浅岡氏】

どうなるかということで、皆さんの想像力にお任せになると、個人のお考えが違ってきてしまうと思いますが、そこはもう少し押鐘さんのお話をお伺いしたいと思うのですが、押鐘さんはどうなると思いますか。「信州」をつけることによってどう変わるでしょうか。

#### 【押鐘氏】

要するに、「信州」ということに対する魅力というのは全国的にすごいんですよ。「信州」を嫌いな人はいない。その「信州」という歴史があるんだったら、「信州」を使わないバカはいないんですよ。

もっと言えば、それからバラも頑張る、日本一にするんですよ。中野の駅に行ってもたいしたことない。バラなんて少ししか置いてない。市役所もそうです。もっと中野の市民全員に、出来たら家の入り口にバラを植えてくださいと。バラでなくてもいいんですが、とにかく花の「信州中野市」にしなければだめなんです。

先ほど言いましたように、須坂市や飯山市が先に「信州」を付けたらどうなっちゃいますか。もっとも、その日まで私は生きていませんから、そんなにみじめではないんですが。余計なことを言いました。

**【浅岡氏】**

また、のちほどお話をお伺いしたいと思います。

**【山田氏】**

商工会議所はご存知かと思いますが、中野市内の商工業者の集まりでございます。全国組織でございます。信州中野商工会議所は、まもなく設立70年を迎えます。当時は、中野中心街の商店街の皆さん方が主に集まって会を運営しておりましたけれども、近年、時代の移り変わりとともに、中野市中の商工業者が集まって、色んな商工業の運営をしておるわけでございますけれども、私どもが「信州中野」という名称に変更したのは、平成 25 年の永井会頭の時に、だいたいこの「信州中野」という名称に変更したらどうかという機運が盛り上がってきて、商工業の間でも「ぜび」ということになって、まずは自分たちから名称を変更しようじゃないか、ということで内部でも大分議論いたしました。では、どうしようかということで、当時商工会議所の会員は中野市に 1,200 人ほどおりましたけれども、全員にアンケートをいたしまして、お返事をいただけるように通知を出しました。全員からお返事はいただけませんでしたけれども、記名式でいただくものでしたので、返事をいただかなかった人には、電話を掛けてまして賛否を問いました。ほぼ全員賛成という声をいただきましたので、名称を変更いたしました。

その後、どういう影響があるかということですが、今の所は、特別変わったいい影響というものは出てきておりませんけれども。近年この中野市というのはだいたい変わってまいりまして、だいたい農業が主体となって来ているような地域になって来ておりまして、農商連携ということが大変重要になって来ております。昔は、先ほど申し上げましたとおり、中心商店街だけが栄えて、この中野の周りだけで経済がまわってございましたけれども、現在は中野の産物を外へ持って売りに出る。それで中野の経済が良くなっている、そういう経済に代わって来ております。商工業の皆さんも、農業の皆さんも、外へ売りに行くということになりますと、どうしても東京の「中野」というイメージが消費者には強いということで、どうしても「信州中野」という名称が必要だということです。外へ売りに行っている人は、名称には、ほぼみんな冠に「信州中野」を付けて売っているということが現状でございます。

現状は、インターも「信州中野」、郵便局も「信州中野」になっております。それから、長野電鉄の駅は昔から「信州中野駅」というふうになっておりまして、周りの主要なものはみんな「信州中野」になってきております。市だけが「中野市」という状況でありまして、ではどういう効果があるかとおっしゃられれば、なかなか難しいところもありますけれども、私たちが東京へ、大学、専門学校に今年も多くの方々が巣立っていきましたけれども、どこの出身か聞かれたときに、「中野市です」と言うと「どこの中野市だい」と聞かれます。そこから始めなければならないんです。

先ほど先生の話にもありました「小布施」とか「長野」とかならすぐわかります。「小布施」と言えばあんな小さい所でも「ああ、いいところだね」と言われます。これは、北斎というようないろいろなことがあってこんな有名になりましたけれども。中野市は、中山晋平、高野辰之さんもいらっしゃるかもしれないけど、まだまだインパクトが弱い。どうしても「信州中野」。そして、この信州中野で出来ませぬ産物、きのこ、ぶどう、りんご、この辺はどうしてもこの中野市だけではなくて、この近隣の市町村

でもみんな作っておられる。でも、信州中野の産物を売るには、この地域間競争に勝っていくには、どうしても勝てない、ということをごさいます、「信州中野」という名称がどうしても必要だということをごさいます。早くやらないとどこかに取られちゃう。先ほど押鐘会長のおっしゃられたとおり、取られちゃう。取られちゃって二番煎じでは非常に難しい、ということをごさいます。

先般、私も外の会議所の会頭さんといろいろお会いする機会がございまして、この間飯田市の会頭さんが私の隣にいて、いろいろつながりを持ったんですけれども、「信州中野」というのはいい案だねと。飯田市にリニアモーターカーの駅ができる。今、駅名をどうするか、いろいろ議論をしているのだけれども、「信州飯田」というのはいいね、というふうにおっしゃられました。それをやられちゃうと、「信州」と言えば「飯田」となって、この北の「信州中野市」なんか、なお一層忘れられちゃう、というようなことになります。この会を起点として中野市民の皆さんに議論をいただきまして、いろんな意見を聞いていただきまして、市長に早く結論を出していただきたい、ということをごさいます。よろしくおねがいします。

**【浅岡氏】**

1,200社の皆さんにアンケートをとられて、賛否を問うということは、いつされたのですか。

**【山田氏】**

平成25年です。

**【浅岡氏】**

そのあとの動きはどんな動きでしたか。

**【山田氏】**

即、「信州中野」に名称を変更しました。商工会議所の名称を変更するというのみのアンケートをとったということです。

**【浅岡氏】**

その時点での異論はなかった、ということですね。

**【赤松氏】**

今年の1月15日に着任しまして、自然が豊かで空気のいいところで生活したいと思ひましてこちらに来る決意をしました。まだ移住して間もないのですが、移住前と移住後との気持ちがこの短期間でいろいろ中野市の印象などが変化したので、その辺をお話しできたらいいなと思ひております。

市名については、日頃生活して使っている人、市民の皆様の意向を大切にされた方がよいのではないかなというふうに変化しております。近年は、各地で市町村合併などにより市名の変更などがありましたが、今後の少子化ですとか、テクノロジーの発達によって、コストの削減などで、また私たちが思いも知らぬ合併問題などのスピードが速まって訪れるような時代に私たちはいるのではないかなと感じています。

そのような中で、中野市の場合、通称名としての「信州中野」というものがあることを知りました。地域のブランド名として、長く愛されるイメージを持ちました。「信州」のイメージは、自然が豊かで、空気と食べ物おいしいイメージがあります。「中野」のイメージとも重なり、有効にPRできる名称だと思ひています。

移住前は、「中野市」と言っても「どこですか」と聞かれることが多いでした。中野市内の方にも、「東京の中野区とお間違いないでしょうか」とたびたび言われました。現在は、「中野ってどこ」と聞

かれることもなくなり、住んでいると不便さを感じることは全くなくなった、という全く逆の現象が今起きております。むしろ今は、「中野は」とか「中野には」と皆様に紹介する時に使いやすいのは、「中野」というシンプルなものの方が、市内にいるときは使いやすいと感じています。移住前は、実は市名を「信州中野」にすれば、と正直言って軽く思っていました。「信州」のイメージは、やはり都内で生活していたりすると、JRなどのポスターなどが新宿や渋谷の大きな駅の一面に貼られていたり、もう少し郊外の町田のターミナル駅などのエスカレーターのところ「信州ディステーションキャンペーン」などで、首都圏全体でPRが沢山されているのを見て、「信州」のイメージがただのおいしさだけでなく、いいイメージを持っていました。でも、「中野」には「信州中野」という通称があることを知り、その地域ブランドを育てていくこと、現在はそちらの方に魅力と新鮮さを感じています。

#### 【浅岡氏】

通称名として「信州中野」を使って、普段使いという所で行くと「中野」の方が使い勝手がいいんじゃないか、そういうご指摘だったのかなというふうに思います。

今日は、この3名のパネリストはどういうふうに入選されたのか、ということに関して少し補足説明しておきますと、いわゆる反対派というんですか、市名をそのまま存続したい、というふうに思われている人たちはあえて入れていないということの中で、いろんな議論が出てくるだろうということが期待されていたわけですけれども、今の中で赤松さんの立場を表現いただいたわけですけれども、この中で議論の枠組みが少し出てきたのかなと思うわけですけれども、この後は、今赤松さんがおっしゃっていたところの通称名使用ではだめなのか、というところだと思います。通称名使用ではだめで、やはり市名にしないとだめなのか、というところが1つの大きな論点になるかと思っています。その辺りに対して少し議論を深めていきたいと思っています。

そのあたり、押鐘さんや山田さんは、通称名使用をもう少し徹底するということについてはいかがなものでしょうか。

#### 【山田氏】

通称名は、ほとんどの場で使われております。市役所の封筒にも「信州中野」と入っている。それはそれでいいとして、これが例えば、先ほどの議論になっております、他でそういう名称が使われたらどうなるか、というところが一番危惧するところであって、二番煎じというのはどうしても、みんな右にならえになって来たものがまた元に戻っちゃうんじゃないかなと思っておりまして、やはり早くこういうことをすることによって、他に追従するところがないような、そして先ほど先生からもお話があったとおり、この地域では「中野」が空白地帯、陥没しているというお話がありました。少しでも浮上させて、中野の農産物が日本全国、あるいは世界で売れるような名称を持って外へ出ていきたい、というのが商工業の立場からの考え方です。

#### 【浅岡氏】

もう一度お伺いしたいんですが、通称名ではなく、市名を変えることによる効果というのは、どんなところにあるだろうと思われませんか。

#### 【山田氏】

ほとんどの商品は、果物にしてもパッケージを見ると「信州中野」と入っている。それから、それに係る6次産業化された新しい物も外へ行って売っていますけれども、全て「信州中野」というような呼称を付けて売っております。「信州」を付けなければ外に行きづらくなるような状況にもなって来ております。通称でいいじゃないかというかもしれませんが、どこかで正式にやら

れたら難しいと、二番煎じになっちゃうという感じで、行政も出来る事ならばっきりと「信州中野」という名称にしていだければ良いというふうに思っています。

#### 【押鐘氏】

「中野」と言えば、ダントツ「東京の中野」なんですよ。残念ながら。当たり前ですよ。まったく太刀打ちできない。「信州中野」にして、マイナスは何があるんですか。

#### 【浅岡氏】

「中野」と言えば、「東京の中野区」ということで。言葉を重ねることになってしまうのですが、私の意見というか、反対の意見の中で言われていることとしたら、市名を継続しつつ、通称名をもっと徹底させれば良いんじゃないかという議論もあるわけなんですね。なぜ、市名変更にそこまでこだわるのか、ということ。先ほど山田さんの意見で言うと、二番煎じで他に変わられたらアウト、という話になりますけれども。それ以外での論点という、どんなことが考えられますか。

#### 【山田氏】

先ほどおっしゃられたとおり、ただ「中野」だと東京の「中野」に間違えられる問題。それと、もうすでに先ほど申し上げましたとおり、高速道路のインターから、駅から、郵便局から、全部「信州」。それから税務署も、これは少し違いますけれども、これは「信濃中野」になっているということで、そこらへんで先に使われているというのが現状ですよ。ですから、それは昔の人たちが差別化するために付けた名前でありますから、現代の人たちもやはり外へ出て物を売りに行くときは、この「信州中野」という呼称が必要で、通称でいいじゃないかとおっしゃられても、やはり、どこですか、「信州中野市」という名称の方がどうしてもいいし、これから若い人たちが外へ出て行っても、「どこですか」「信州中野市」「ああ、長野県だね」ということで、いろいろ説明しなくても済む。住んでいる人は、そんなに長い名前はちょっと、という方もいるかもしれませんが、これからの中野市の経済やいろんな面から言って、どうしても「信州中野市」というのが必要だと思っています。

#### 【押鐘氏】

自慢話をするのではないんですが、中野商工会議所が信州中野商工会議所になりました。「信州」を付けるというのは、北信ローカルの第1回文化講演会で僕が1時間半ほど話をしたんですが、その時からずっと言っていることなんです。商工会議所が名称変更をする数か月前から会頭が、押鐘さんに言われたように、そういうふうにする方向だよと。うれしかったですね。なんで「信州」を付けないんだ。「中野」と言ったら東京の「中野」にかなわないんだ。「信州」というのはみんな好きなんだよ。早い者勝ちですよ。同じことを言いますが、飯山市や須坂市に先に「信州」を付けられたらどうするんですか。これでもう言いませんので安心してください。

#### 【浅岡氏】

市民満足度調査で自由回答の意見の中に、もう1つ、これも重要な意見かなと思ったのは、「信州」という他の自治体がある中で、先ほども出ていた二番煎じにならない方がいい、という議論もある一方で、市民の反対派の意見になろうかと思いますが、それにふさわしいのかどうか、という意見もあります。つまり、「信州なんとか市」というのは、うちが一番になる資格があるのか、とか。というふうに言いきってしまえばそれでいいかもしれませんが、その辺りはいかがでしょうか。

競争のように「信州」というのを言ったもん勝ちだ、というのはちょっと荒っぽい議論かなと思うんですね。それを言った時に、名乗る資格の問題があって、「信州」の中で自治体はたくさんある中で、それをさきかけてやるということには抵抗がある、という見方もあるわけなんですけれども、それ



に対してはどう考えますでしょうか。

#### 【赤松氏】

今、お二人の中野出身の、生まれたところに対する地名への熱い思いを受け止めて、本当に「中野」に対する熱い思いが強い方たちで。

中野に来て不思議に正直思ったのは、県外に出ている中野出身の方が、知名度が低いことをすごく意識しているということ、ちょっとびっくりしました。日本全国、たぶんどこでもそうなんですけれども、本当に有名なのはごく一部で、ほとんどの市町村をみんなが言えるかと言ったら、たぶん皆さん知らないと思うんですね。その中でもすごくいいところがあったり、有名な特産物が実は一番のものがあるんだよ、とかあると思うんですけれども。でも、そこを気にしてくださっているところは、やはりそれだけ首都圏にも近いですし、いろいろと聞かれることだったり、行ったことがある場所が多かったりするので、地元に対する熱い気持ちのある人が多い街なんだなあとということで、「中野」に対してよい印象を、不思議には思いましたが持ちました。

#### 【浅岡氏】

今の議論の中で、私の方からも少し、反対の意見でこういうものがあるんですよ、ということを紹介しているんですが、なんといっても、この市名変更への機運が高まっていないというのは感じることであります。これは、外部の目というところで思うところがあるんですけれども、そういったところについてどう考えるのか。あるいは、それについて今後どういった働きをしていこうと思っているのか、このあたりをちょっとお考えをお聞かせいただければと思います。

#### 【押鐘氏】

今のご質問と違うかもしれませんが、市長に私がお願いしたいことは、バラ公園がありますよね。あそこの南側、西側は田んぼですよ。とにかく日本一のものを作る、市民参加の。バラを中心に、タンポポでも、クローバーでも何でも好きなものを植えてくださいと。そして、そこに高野辰之、中山晋平先生の記念館を今のままの形で移築する。そうすると全然格が違って来ますよ。そういうような、別枠の発想というのをしないと、これからの時代というのはなかなか進歩することができないと思うんです。だから、中山晋平と、高野辰之先生を合併する。そして、そのままの形で説得して移す。そこへ日本一のバラ公園ということになります。南側、西側は畑ですから、ある程度の値段で売ってくれると思いますから。

#### 【浅岡氏】

日本一のものをつくるということは、これは市名変更するかどうかには係わらず、市を有名にするということは当然大事ですね。そのための大きな目玉になるような日本一が必要だということは間違いないというふうに思うのですが。そのために、日本一をつくった市民の人たちの自尊心と言いますか、も上がっていくというふうに思いますが、このあたりの見解も聞きたいなというふうに思います。

#### 【押鐘氏】

要するに、市民の人たち、我々だって平岡村から中野に代わることにに対しては少しは、他の地域もそうですけど、それが「中野」になったじゃないですか。不安なんか持っていませんよ。そんな細かい、どうでもいい、委縮しちゃっているそういう方と議論したいですね。

#### 【山田氏】

そこが市名変更の一番難しいところというふうに思います。普段、この地域に住んでおられて、商工業じゃなくっている方が外へ、中野市から長野市などへお勤めになっている方は、特別変更す

る必要はないというふうに思っていると私も思います。しかし、この地域の経済を支える、やはり経済が良くなると、サラリーマンは別にして商工業の方々の経済が良くなると、若者がこの地へ戻ってきて家業を継ぐということがなかなか難しいという世の中になって来ていると思います。現に、今後継者問題が非常に難しい問題になって来ている、自分たちの子どもたちは、いい学校に入った、東京の良い所へ就職した、給料をいっぱいもらっている、と自慢げに話す人がいるんですけども、そろそろ家に帰って来てくれやと言うと、「じゃあ、父ちゃんが今もらっている給料払ってくれるのか」というふうに言われてしまう。やはり、地域経済が良くなると、子どもも地域に戻って来てくれないということも、一般市民の方にも少しお分かりいただけたらと思いますので、そういった点も議論の争点にさせていただけたらと思っています。

#### 【浅岡氏】

そこはやはり大きな論点になるのではないかと思います、どこまで行っても平行線になってしまふのは、経済の活性化のために「信州中野」に変更した方がいいだろうというお話になった時に、先ほどの話に戻っちゃうわけですけども、どうしても出てくる議論というのは、「信州中野」はブランド名であって、「中野」ではだめなんですか、ということなんですね。そのあたりはどういうふうにお考えですか。

例えば、「中野」のままだと地域が弱くなってしまふということなんではなかろうか。市名がそのままだと、経済としてはどうも弱体化する、極端な話をしたんですが、そういうことなんではなかろうか。

#### 【山田氏】

経済的なことは再三申し上げましたけれども、もう1つ、この地域から県外へ出て行く、例えば大学生やそういった人たちが、「どこ出身だい？」と言われた時に、「信州中野」と言っただけで、長野県のここだというイメージが結び付けられるような地域に、それはこの地域にいる我々がしていかなければならないんですけども、ただ「中野」と言っただけでは、先ほども議論になっています東京の「中野区」と間違えられちゃう。出て行った人たちが自慢できる「信州中野」。「信州中野」と言っただけでわかるような地域にしていかなければいけないのは我々の責任もありますけれども、そう言ったらすぐ、「おらほうだ」というふうなイメージを持ってもらえればありがたい。そして、地域に戻って来てもらいたい、というように思います。

#### 【浅岡氏】

私は反対派ではありません。あくまでも今日は聞く立場での話なんです、ちょっと今の話だとするならば、気になるデータがあるのですが、若者が変更を望んでいないという点ですね。若者が「市名変更を望みますか」の設問に「現状維持」ということで、今のおっしゃる話からするとちょっと矛盾するのかなという気がするんです。やはり、若者が自分たちが住んでいる街が「信州」にあるということを言いたい、アピールしたいということであれば、自分は「信州中野市の出身だよ」ということで、票が伸びていてもいいんですけども、実は20代から30代の若者が一番「今の中野を維持したい」ということなんですけども、このあたりは1つポイントになってくると思うのですが、このあたりについてはいかがでしょうか。

#### 【山田氏】

若い人たちとそういう観点で議論をしたことがないので、どういうことが根拠でそういう考えなのかちょっとわかりません。

#### 【浅岡氏】

逆に言うと、先ほど赤松さんの立場での話で、地元の市民感情としては「中野」というのを大事にしたい、という発言だと思うんですけども、それをなんでか考えると、また先ほどの話と重複になっちゃうかもしれませんが、「信州中野」に変えた方がいいということに対して、やはり市民感情としては、まだそこまで至っていないという考え方なんではないでしょうか。

#### 【赤松氏】

中野に来てからは、市民の皆様と交流する機会が多かったので、ご年配の方から同世代、私より下の世代の方ともお話をさせていただいたのですが、ちょっと不思議に思ったのが、私は「信州」のイメージを好意的に思っていたのですが、私より5つくらい年下の女性だったんですけども、「信州」のイメージは田舎っぽいイメージがある」と言われました。「中野」に住んでいたらそういったイメージが付くのはわかるんですけども、私がちょっと「信州という言葉を聞くと、空気が良くて、自然がいっぱいで、すごく素敵な場所を感じるんだけど」と言うと、若い世代の方でもずっと中野市に住んでいて、北信州に住んでいる方のイメージというのは、田舎くさかったり、歴史的な、「今はもう平成なのに、「信州」って昔の言い方じゃない。」というような、その一人の意見なんですけれども、住んでいる場所によって出る情報は違うので、首都圏に住んでいた時よりも長野県にいと、やはりローカルのテレビ局だったり、新聞だったり、そういったものだけを見ていると確かに首都圏に発信されている「信州」のイメージと実際に住んでいる「信州」のイメージがこれほどまでも差があるのかと感じたので、そういったところを、若いとか歳をとっているとか関係なしに少しずつ埋めていく必要性というのがあるのかなと感じました。

#### 【浅岡氏】

世代論の話みたいになってしまっていて、若い人、年配の人はどうか、ということであると、少し他の議論になってしまうかもしれませんが、いくつか論点として整理できて来たのかなと思うのですが、1つは、私の司会なりの論点の整理の仕方と言うと、やはり経済的なところの活性化ということに市名の変更がどこまで寄与するのかということ、それを素人考えで言うと、私は経済の専門家でも何でもありませんので、私はブランドの方を専門にしているので、ブランド化をするという観点からするのであれば、ブランドを徹底することによって市の知名度も一緒に挙げていくことができるのではないかなというようなロジックはわかるのですが、市の名前自身を変えなくてはいけないうのかどうかということ、それによってどういう経済効果が得られるのか、ということに関してはまだ未知数なのかなと私自身は考えたりするんですけども、このあたりが1つの論点になるのかなと思います。

なかなか経済波及効果は、そんな単純な問題ではないので、いろんなことを考えなければいけないと思うんですけども、そういう経済波及効果の問題と市名変更の問題がもう少しちゃんとリンクしているかどうかということをつまびらかにした方がいいんじゃないかなということが1点。それから、やはり市民感情の方からすると、中野に住んでいる人の愛着というものは相当あるんじゃないかなと思います。首都圏に出るとか、そういったことは別にしても、ここに住んでいる人たちがどう考えるのかということがやはり重要だと思いますので、それがまた1つ論点になるのかなと考えております。ちょっとそういう論点のまとめ方は乱暴かもしれませんが、徐々に時間も近づいてきましたので、今日は結論を出すのが目的でも何でもありませんので、もう少しこういう論点もあるとか、こういう見方もあるとか、あるいは私司会の方で変なまとめ方をしてしまったというのであれば、それも含めて、もう1度押鐘さまから今までの話をまとめるとこう思ったとか、改めてご発言をいただければと思います。

#### 【押鐘氏】

僕は口がいいんで有名なんですけど、馬鹿じゃないかと思うんですよ、「信州中野」にしないというのは。マイナスなんてないんですよ。少なくとも「信州中野」と「中野市産」ではりんごの味も違うし、水の味も、空気の味も違う。須坂刑務所に入っていた僕でも、中野生まれの人だと思えば、そんな刑務所に入らなかつたんだろうと、冗談ですが、そんな位違います。

さっきと同じことを言いますが、僕が須坂や飯山の市長だったら、先に「信州」を付けちゃいますよ。もしそうなったらどうなるんですか。「信州中野」のどこが悪いんですか。

バラ公園も当然「信州中野バラ公園」、僕が長野電鉄に交渉して、僕だったら中野の駅を「信州中野バラ公園駅」にする。それがダメだったら松川駅を「信州中野バラ公園駅」にする。とにかく日本一、県を代表するようなものをいろんな角度から作っていかなければいけない。先ほどもちょっと申し上げましたが、「バラ」と「高野辰之先生」と「中山晋平先生」と、そういうものを足すと、1+1が5にも、10にもなるんです。そういう発想で出来たらご検討いただきたいと、それが私の願いであります。

#### 【浅岡氏】

マイナスはあるのか、というご指摘だったと思います。

#### 【山田氏】

今、いろんなお話をしたんですが、私は商工業の立場からするとぜひとも変えていただきたいということをごさいますけれども、商工業だけでなくいろんな方がおいでになるので、そういう方々ともう少し議論をする場を作って、この議論が色んな方から高まるような場をつくっていただいて、最後は名称を変更する方へ行ければというふうに私は思っています。

#### 【浅岡氏】

商工業者の立場からということでしたが、今後対話する相手とすれば市民の方ですかね。団体とか。

#### 【山田氏】

商工業関係の若い方、私どもの中には青年部、あるいは女性会というように別の組織でいますが、そういう人たちとも話をしていく。それから、どうしても商工業が主体になってきますけれども、私どももいろんな事業も進めていく中で青年会議所とか、農協の青年部の皆さん方と一緒にいろんな事業を、地域づくりをやっていただいております。今年で3年目になりますけれども、おごっソフエアというイベントをやっております。これは若い皆さんのアイデアでやっておりますけれども、そういう人たちと交流する中で、改めて市名変更については議論したことはありませんけれども、そういう場等も使って、またそういう議論もできればというふうに思っております。

#### 【浅岡氏】

そういう議論が今までなかったというのは、なかなかしづらかったのか、どういう理由が考えられますか。議論する場がなかったのでしょうか。

#### 【山田氏】

場がなかったということですね。とにかく、そういうことをやることだけ頭にあって、そこまでまだ余裕がなかった。

これから、そういう若い人たちの集まりが熟してくる時期で、そういうことも対話することが出来て来ようかと思っています。

#### 【赤松氏】

私は、まだ地域おこし協力隊としての活動は未熟なんですけれども、4月から4名体制になりました。私だけではなく他の隊員も含めて活動を進めていくことになると思います。その中で、今も付けているんですけども、市役所の方も、市長さんも付けていると思うのですが、「信州中野」というピンバッジがあります。私は今後活動する時、首都圏などで「中野」をPRする機会に恵まれた時は、このピンバッジ、もしくはこのベストがあるんですけども、こちらの方に「信州中野」と入っています。まずは、私は自分の仕事上の立場からでもブランディング、地域のブランドを育てたいというがあるので、こういうような形でまず「信州中野」と向き合っていきたいなと思っております。

#### 【浅岡氏】

既に時間が5分過ぎておりますので、まとめに入りたいと思います。最後にまたお1人ずつご発言いただければと思うのですが、いろいろ議論の論点が出てきたと思うのです。

押鐘さんの発言で言うと、マイナスはどこにあるのか、ということで、私がもし反対派であれば、それに対してはたぶん意見が言えないと思うんですね。ただ逆に言うと、ではプラスはどこにあるのかということだと思うのです。プラスとして何を言うことがあるのかということですね。もっと具体的なものを出してほしいと思うんです。名前を「中野」ではなくて「信州中野」にするとどれだけいいメリットがあるのかということが、まだ具体的には明確になっていないのかなと思います。気分的なもの、感情的なもので、こうした方が、あった方がいいんじゃないのというのはわかるのですが、もっともっとそれに対しての意見、そんなにいいことがあるならやっぱり変えた方がいいんじゃないか、となるような説得できるような材料にはまだちょっとなってないのかな、と第三者的には思ったりします。

マイナスがどこにあるのか、と言われた時には、それに対してはすぐに言えないんですが、それに対して私が反論したいのは、プラスがどこにあるかというところで、具体的なエビデンス、具体的な数値、具体的な証拠というものを出す必要があるのかなと思いますので、その辺りをもう少し明確にさせていただいたうえで、さらに議論を進めて行くと、なんとなくその意識が醸成されていくのかなという感じがいたします。私なりにそう考えたということで、これが結論ではないので、最後にお三方にマイクを回しまして、締めさせていただくことにしたいと思います。

最後まとめと言いますか、今日の話聞いて、一言お願いします。

#### 【赤松氏】

今回、正直に言ってこのような多くの皆様の前でお話しすることも緊張しましたし、本当に移住したばかりの私がこのような場所に座っていいのかというような不安などもありましたが、この機会をきっかけに中野市についていろいろと向き合う機会になったので、先生が最初におっしゃいました熟議という言葉があったんですけども、本当に今回のシンポジウムをきっかけに、市内の皆様だけでなく、県外に出られた中野市出身者の方も、ぜひこの機会に熟議していただければいいなと思いました。今日はありがとうございました。

#### 【山田氏】

結論的に言いますと、私はこの地域が日本全国で有名になって、うんと栄えて、そして経済的にも豊かになって、素晴らしい地域になってもらいたいという気持ちがつようございます。

やはり、こういう議論をすることによって、議論の争点があることが、やはりこの地域のことを皆さんが前向きにこの地域のことを考えて、そしてどうしていくかということの方向が出てくるんじゃないかなと思っております。今日を起点として、議論をもっともっというろんな地域でしていただいで、素晴らしい地域に、そして日本でも世界的にも有名な地域になってもらいたいと思っておりま

す。

**【押鐘氏】**

私に権限があるならば、飯田市の市長なら「信州飯田市」にします。飯山市なら「信州飯山市」にします。「信州須坂市」にします。以上です。

**【浅岡氏】**

意見は少し相違があったかもしれませんが、3名のパネリストの方、あるいはこの会場にいらっしゃる方に共通することはやはり、今の「中野市」とどまるということよりも、より名前を知ってほしいし、市民の皆さんが愛着を持ってこの街を支えていくようになっていくということが望まれるのかなと思います。

やはり、素晴らしい名前の地域というのは、全員参加というのが大事だと思うんですね。今まで私が一つ思っていたのは、「中野市」はこの名前の問題が出た時に、普通は賛成派と反対派がもっとわかるんですよ。今回の話で、私はずっと反対派がいるのかなと探していたんですね。いろんなところでウォッチしていたんです。反対派がないということは、つまり逆に言うと「中野市」をどうしたい、と思っている人があまりいないのかなと思います。本当に「信州中野」に変えるという意見に対して反対という立場の人がいたとしたら、もっと上がってきている。そして議論をしたり、言うべきだと思うんです。そこまで愛着を持っている人が出てきてもおかしくないと思うのですが、そういう人がいないということはちょっと「中野」にとっては不幸なことかなと思いますので、これを起点に市民の間でどうしたいのか、もっと言うと若い人たちがこの市をどうしていきたいのかということを中心に、やはり未来を背負っていくのは若い人達ですから、ヤングジェネレーションですから、もっともっと若い人たちを巻き込みつつ、どういう街にしていきたいのかということを中心に、やはりこの「信州中野」であるとか、「中野」であるとか、もっと別の第三の選択を考えるのか、というふうにご検討の方がいいんじゃないかなと思いますので、名前を変えるだけでは、本当に形でしかないの、というふうには思います。名前を変えれば後についてくるということは、ちょっとそれは学問的な立場から言うと行き過ぎた見方かなと思っていますので、そこを変えるための決断が必要である。決断はやはりすばやくした方がいいと私も思いますけれども、決断をするためには材料をとにかく集めて、熟議をして、考えた末の結論を出さないと、思いつきでやると絶対後で議論になったり、後で「あの時であんなことになっちゃった」ということになるというのはちょっと、それが一番懸念される部分でありますので、押鐘さまの話で出た、「早く、すばやく決定する」ということが求められるとは思いますが、やはりそこへの道筋というのを大事にした方がいいのではないかなと思います。そうするとどうしても遅れてしまうという話になるのですが、そう思ったらやはりいち早く議論をしていくということが必要になってくるのかなと思います。今日は、1つのきっかけにすぎないですけども、スタートするこの道筋の中をふまえて、市民の皆様の中でいろんな立場の方が議論をしていく、その時は賛成派、反対派もいるような形の中で議論をしていって、しっかりデータに基づきながらお話をしていって、この「信州中野」にするも、「中野」そのままにしても、いい選択に街がなっていくということが期待されるのかなと思っています。

ちょっとまとめ方としては、玉虫色というか、もう少しまがり付けた方がいいかもしれませんが、今日のところとしては今のようにこれから市民の皆さんの議論のもとでいい方向に進んでいくということをご期待させていただきます。私自身の立場では、どちらにするということではありませんので、これでまとめとさせていただきます。パネルディスカッションの方は終了とさせていただきます。

と思います。

今日会場にお越しの方に、今日は質問の時間が持てませんでした。おそらく意見交換をすると切りがなくなってしまうので質問の時間が持てなかったのですが、今日のアンケートのところには、今日話を聞いてどう思ったかを書く欄がありますので、そちらの方に書いていただくと今後の議論の礎になっていくかもしれませんし、議論の争点が明確になっていくということがあるかもしれませんので、そういう場として話を聞いた皆様がこの場でお考えになることも大事ですし、持ち帰って、あるいは職場で話しをするとか、あるいは友達としゃべるとかいうふうに枠を広げて行けば、どんどん街も活性化していく。結果としてそれが「信州中野」になるのか、あるいはそのままかはわかりませんが、そういう話をするということが大事かと思いますので、それぞれ持ち帰っていただければということで締めさせていただきます。

終了 午後 7 時 50 分

# 中野市の市名・通称名を考えるシンポジウム ～市の魅力度と知名度向上を探る～

## アンケート結果

平成30年3月27日実施

### 調査の概要

#### 1 調査の目的

シンポジウム来場者の属性や意見等を把握し、今後の参考資料とするためアンケートを実施する。

#### 2 調査概要

- ①調査対象：シンポジウム来場者（市内、市外）
- ②調査方法：配布により、当日及び4月5日までに郵送、FAX、メールによる回収
- ③配布数：57票（来場者数）
- ④回収数：37票
- ⑤回収率：64.9%

#### 3 集計上の留意点

- ①回答率(割合(%))は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位までを表記のため、合計が100にならない場合がある。
- ②複数回答の設問では、回答率(割合(%))は回答者総数に対する回答数の割合を示している。よって、回答率の合計は100にならない。同様に、回答数の合計は回答者総数とは一致しない。



中野市の市名・通称名を考えるシンポジウム アンケート結果

問1 年齢

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	20歳未満	1	2.7	2.8
2	20代	1	2.7	2.8
3	30代	3	8.1	8.3
4	40代	5	13.5	13.9
5	50代	17	45.9	47.2
6	60代	5	13.5	13.9
7	70歳以上	4	10.8	11.1
	無回答	1	2.7	
	N (% <sup>^</sup> -λ)	37	100	36件

問1 性別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	男性	34	91.9	97.1
2	女性	1	2.7	2.9
	無回答	2	5.4	
	N (% <sup>^</sup> -λ)	37	100	35件

問1 住所

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	中野地区	11	29.7	35.5
2	日野地区	1	2.7	3.2
3	延徳地区	2	5.4	6.5
4	平野地区	8	21.6	25.8
5	高丘地区	3	8.1	9.7
6	長丘地区	0	0.0	0.0
7	平岡地区	3	8.1	9.7
8	科野地区	2	5.4	6.5
9	倭地区	0	0.0	0.0
10	豊井地区	0	0.0	0.0
11	上今井地区	1	2.7	3.2
12	永田地区	0	0.0	0.0
13	市外	0	0.0	0.0
	無回答	6	16.2	
	N (% <sup>^</sup> -λ)	37	100	31件

問2 シンポジウム参加の動機は何ですか？（あてはまるものはいくつでも○）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	基調講演を聞きたかった	15	40.5	40.5
2	パネルディスカッションを聞きたかった	18	48.6	48.6
3	テーマに興味があった	19	51.4	51.4
4	知識を得るため	11	29.7	29.7
5	会社・関係団体からの案内	7	18.9	18.9
6	知人からの紹介	1	2.7	2.7
7	その他	3	8.1	8.1
	無回答	0	0.0	
	N (% <sup>^</sup> -入)	37	100	37件

問3 シンポジウム参加されていたいかがでしたか？

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	非常に良かった	8	21.6	22.9
2	良かった	19	51.4	54.3
3	ふつう	6	16.2	17.1
4	あまり良くなかった	2	5.4	5.7
5	良くなかった	0	0.0	0.0
	無回答	2	5.4	
	N (% <sup>^</sup> -入)	37	100	35件

問4 シンポジウムの内容はどうか？①基調講演

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	非常に参考になった	15	40.5	40.5
2	ある程度参考になった	19	51.4	51.4
3	どちらともいえない	3	8.1	8.1
4	あまり参考にならなかった	0	0.0	0.0
5	参考にならなかった	0	0.0	0.0
	無回答	0	0.0	
	N (% <sup>^</sup> -入)	37	100	37件

問4 シンポジウムの内容はどうか？②パネルディスカッション

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	非常に参考になった	9	24.3	24.3
2	ある程度参考になった	14	37.8	37.8
3	どちらともいえない	7	18.9	18.9
4	あまり参考にならなかった	5	13.5	13.5
5	参考にならなかった	2	5.4	5.4
	無回答	0	0.0	
	N (% <sup>^</sup> -入)	37	100	37件

シンポジウムを通してご意見、ご感想などありましたら、ご記入ください。

件数28
信州中野市、非常に魅力のある市名と考えます。 しかし、市名を変える前にやらなければならない事が山積と本日のレジュメを読み改めて感じた。 他に信州を使用されたらという意見が強かったが、魅力のある土地ならば何番煎じでも変わらないのでは。 通称で一番を目指してはどうだろうか。日本一を作ることは大賛成ですが。
メリット、デメリットを記載した資料をもとに議論の場をもうけたらどうだろうか。
名称変更賛成派は意見もち、現状より向上を考えている。 反対派の意見を聞く場面を作ってもよいのではないか。 市民アンケートについては、聞き方によって回答が変わるのではないかと思われる。 もっと議論の場がほしい。
長野を離れて退職して又戻る友人が東京、大阪に多く、来信する友人は「中野市」は何処に在るのか殆んど知らない。(東京中野と間違える人も多い) 少なくとも信州中野市の名称にして中野は長野県に在る事でも良いと思う。 そしてその決定はある意味ではTOPが独断でやらないと何年経っても決まらないのではないか。
様々な視点から市の名称をどうしていけば良いのか聞くことができて良かった。こういった機会はなかなかないのでもっと開催して欲しい。今回は市名を変えることで市民が払うべきコスト(金銭面や住所変更に伴う不便さなど)が話されなかつたので次回あれば、そういった点について聞いてみたい。
なかののブランディング強化
賛成、反対者のパネリストは年令的に中年の人選をしてほしかった。 パネラーの年令に差がありすぎます。
基調講演がとても参考になりました。 パネルディスカッションについては、情緒的な議論に終始してしまった点が非常に残念です。 論理的、建設的な議論が多いと参考になります。ただ、とてもいい起点になったと思います。
新しい形の市を創りたいという思いと具体的なプランを手掛け始めている人、企業が多くなってくれば、新名称にも期待が生まれる。 希望に満ちた結婚をすれば姓を変えることに抵抗もない。 どうでもいいという考え方を傍においても、地域で生産されたものを購入し、地域の人が生み出すサービスを受け入れることが地域内の経済の循環を盛んにする。地方自治が成立する生き方をする市民としての意識が高まれば、域外へ流出する財を押え、地内で生産するものが域外に売れる地域にすることは市民共通の目的である。市の名称についての決断はそこから決まるべきである。
市名を変えるためのシンポジウムになってしまったように思う。 もっと賛成、反対の両者を集めて進めてからこの会議にすべきだった。 賛成の方向に進めたがメリット・デメリットをもっと明かすに。JAの関係者の出席もほしかった。 コーディネーターの意見が多すぎた。
多くの意見を聞きながら考えるよいきっかけになりました。
賛否両論の意見対立が聞きたかった。 メリット・デメリット提示の考えに賛同する。
「信州なかの」は通称でよいと思う。 信州は長野県民のものでよい。(観光ポスターなどでは、信州うえだ、信州松本としてPRしている、それではないか)
コーディネーターとパネリストとの議論が噛合わないため論点がぼやけたのは残念でした。 パネリストはもう少し人数を増やして(年代や性別も考慮)
市名は中野市、通称名は信州中野でよい。 もっとその通称名でPRしていけばよい。というように感じた。
名称変更を議論する必要はない。 今のまま通称名を広めていけばよい。

<p>外部から見るとほとんど知られていない中野市を改めて認識した。</p> <p>井の中の蛙ではなく、広く世間を見ながら中野市の立ち位置、方向性を探る必要があると感じた。</p> <p>市名変更する！日本一をめざす！→多くの市民が望んでいることなのかなあとモヤモヤした思いを持った。</p>
<p>赤松さんの考え方、意見にとっても共感できた。</p> <p>若者のための市名変更、でも若者はそれを望んでいないというデータ、赤松さんが紹介された若者の意見にヒントがあるかも。若者との対話が必要だと感じた。</p>
<p>世代を越えて信州中野に対してのとらえ方がそれぞれ違う事！</p> <p>イメージUPになるよう何かNo.1になって先進的な取り組みが必要。</p> <p>中野のバラ公園は全国に今はガーデニングブームの中、10年遅れているイメージがあって、ガーデナーの方からは、知名度が低いです。もっと勉強してセンスUPしないとこの先入園者数は増えないと思います。</p>
<p>市民総意の意見で決定してほしい。</p> <p>市民でのもり上がりに欠ける。</p>
<p>パネリストの人選ミス</p>
<p>「名は体を表す」「名前に魂が宿る」信州という名前の持つ良いイメージに頼るだけでなく、名称変更とともに歴史・自然・文化に根ざしつつ、新しい市を創造する努力が必要なのは・・・</p>
<p>パネルディスカッションについて、第2回を開催してほしい。</p> <p>別のパネリストを呼んでもらえれば、また別の視点での話しになり、ぜひ参加したい。</p>
<p>通称名には他でも「信州」を使ってPRしているのだから仮に市名を変えてもメリットはない気がする。</p> <p>商品に「信州なかの」をつけているため、産地とリンクして覚えてもらうことに関しては有効だと思う。</p> <p>これをきっかけにして話を進めていけばよいと思った。</p> <p>若い人たちと話してみても？（票が伸びていない理由さがし）</p> <p>中野市を市民をまき込んでPRしていくなかで必要という声が出てきてからでもいいのではないかな？</p>
<p>「〇〇バラ公園駅」論、大賛成です。押鐘氏の意見に大賛成。</p> <p>長電駅ロータリーから通りへの出口に大きなバラのアーチをつくったらと個人で提案したことがあります。</p> <p>市の出身者の熱い思いに驚いたという赤松氏の弁でしたが即ち、市の産業の不活発さをみかねての思いと推測します。また「通称で」については、ポスターに「信州中野」と記されていても、それは、市名か町名か村名か分かりません。字面だけでは漠然とした表現でアピール力を感じません。</p> <p>市名変更－やらないより、やってみる。結果は予測できないけれど、後からついてくるもの、と思います。</p> <p>若者の無関心について－市の魅力を現在感じていない為だと思います。外に出てから感じとる事ができるのかも。この市に魅力がないからか、関心のない人が多いから盛り上がらないのか、二ワトリと玉子論に近い。</p>
<p>知名度は大切だと思う。信州中野市に変えるべきだと思う。</p> <p>今後もシンポジウムを開催してください。</p>
<p>商工会議所のアンケートは、デメリットも多い説問であり92.2%の賛成で決定した。</p> <p>市ではメリット・デメリットを説明なしにアンケートをとった。</p> <p>メリット・デメリットを充分説明して熟議をしていただきたい</p>
<p>やっぱり信州中野市とした方が良くはないではなく、するべきと思いました。経済面からも必要です。</p>

# 中野市の市名・通称名を考えるシンポジウム

## ～市の魅力度と知名度向上を探る～

### 1 趣旨

東洋経済新報社が全国の都市を対象にした「住みよさランキング 2017」において中野市は全国 43 位にランキングされました。しかしながら、本市の魅力度や知名度については、地域ブランド総合研究所が発表した「地域ブランド調査 2017」ランキングでは、魅力度 787 位（前年 652 位）、認知度 828 位（前年 807 位）でありました。

認知度の低さからもわかるように、県外の方の多くは「中野市ってどこ？」が現状であります。

中野市の農産物や観光、自然等の魅力をさらに高め、市外、県外に情報発信をしていくことは重要であり、地域として注目を集めることは、地域経済の活性化を促進し、中野市の「魅力度と知名度(認知度)の向上」につながるものと考えられます。

そこで、市内・市外に居住されている方を交え、様々な視点から市の魅力度、知名度の向上につながる PR 方法・ブランド活用について、シティプロモーションの 1 つとして「中野市の市名・通称名」を考えてみることにしました。

### 2 日程

- |         |  |
|---------|--|
| 1 日時    | 平成 30 年 3 月 27 日（火） 18:00～19:30  |
| 2 会場    | 中野市役所本庁舎 4 階 41～43 会議室   |
| 3 定員    | 50 人（誰でも参加可）申込不要・入場無料  |
| 4 プログラム | 17:30 開場   |
|         | 18:00 開会 主催者あいさつ中野市長   |
|         | 18:05 【第 1 部】基調講演<br>演題『地域の魅力度と知名度向上を考えるための論点』<br>講師：浅岡 隆裕 氏 立正大学文学部社会学科 准教授   |
|         | 18:30 【第 2 部】パネルディスカッション<br>テーマ『中野市の市名・通称名を考える<br>～市の魅力度と知名度向上を探る～』<br>コーディネーター<br>浅岡 隆裕 氏 立正大学文学部社会学科 准教授<br>パネリスト<br>押鐘 富士雄 氏 首都圏ふるさと信州中野会 会長<br>山田 彰一 氏 信州中野商工会議所 会頭<br>赤松 頼子 氏 中野市地域おこし協力隊 |
|         | 19:30 閉会   |



## 地域の魅力度と知名度向上を考えるための論点

### 1. シンポジウムの目的（確認）

市の魅力度，知名度の向上につながる PR 方法・ブランド活用について，「シティプロモーション」の1つとして，中野市の市名・通称名を考える。

シティプロモーションの定義；「地域を持続的に発展させるために地域の魅力を地域内外に効果的に訴求し，それにより，人材・物財・資金・情報などの資源を地域内部で使用可能としていくこと」<sup>1</sup>

### 2. 市名を考えるにあたっての論点整理

既存データや知見の整理とそこからの示唆を“論点”として提示する。

市外部からの見方→市内部の見方という展開。

#### **魅力度と知名度向上の論点1 中野市について全国メディアでの扱われ方の現状**

メディア上での中野市の取り上げられ方＝中野市に関する外部的な評価付け

##### ①（全国放送の）テレビ番組での取り上げられ方の特質

紀行・旅番組，情報バラエティ番組等で，中野市が広く取り上げられているものを分析。

2016年1月～2018年3月までの約2年間において，中野市関連のテレビ番組件数は，総数110件。これには市内で発生した事件・事故や単純に中野市に存在する企業や団体・個人などが取り上げられている例も含むので，それらを除外する。

【結果からの考察】中野市の情報や魅力発信につながっている番組は本紙7～8頁になり，計14件（天皇陛下の長野訪問は参考）。

キノコやフルーツといった特産品が中心的に取り上げられている。

中山晋平と高野辰之に関わるトピックは，番組露出も極めて少ない。

##### ②観光雑誌，MOOKなどでの取り上げられ方

首都圏で市販されているメジャーな雑誌や観光ガイドブックでの記載内容を確認。

『散歩の達人 MOOK 信州さんぽ』（交通新聞社）

『まっぷる信州』（昭文社），『ことりっぷ』（昭文社）

『るるぶ長野善光寺上田』（JTBパブリッシング），『ココミル』（JTBパブリッシング）

【結果からの考察】中野市の露出は極めて少ない。『まっぷる信州』で紹介が1頁あるくらいで，それ以外では全く記載がない。北信では小布施，須坂，飯山については5冊ともに記載がある。中野は空白地帯になっている。『るるぶ長野善光寺上田』これらで取り上げられていないことから，“観光地”という認識は持たれていない。取り上げられないので，知名度の高さにつながっていないのではないのか。

##### ③一般雑誌での取り上げられ方

大宅壮一文庫の雑誌記事検索結果（Web-OYA）<sup>2</sup>によれば，2015年1月以降，中野市に関

<sup>1</sup> 河井孝仁（2009）『シティプロモーション 地域の魅力を創るしごと』東京法令出版：1

<sup>2</sup> 大宅壮一文庫は，評論家・大宅壮一（1900－1970）の雑誌コレクションを引き継いで，明治

する情報が一般誌で取り上げられたのは 1 件のみ。地域の紹介が頻繁になされるのは飯山が最も多く 25 件、小布施 (15 件)、須坂 (7 件) が続く。

#### ④WEB メディアの取り上げられ方

全国の 814 市区を対象にした東洋経済の「住みよさランキング 2017」<sup>3</sup>において、中野市は長野県内で 1 位<sup>4</sup> (全国 43 位) という結果になったが、ネット上で顕出性はどうか。移住先ランキングで山梨、長野が 1、2 位を争う状況になっているが<sup>5</sup>、ネット上で、長野県×住みやすさというキーワードでネット検索するという最も一般的に行われそうな情報収集を考えても、ほとんど露出が見られない。「暮らしやすさランキング」で 1 位となった効果は顕在化していない。

全国メディアレベルで中野市の名前や市内に関係する産物が出ることはかなり稀なケースでメディア露出は極めて限定的。全国メディアで取り上げられるためには、際立つ魅力や素材が必要だが、現時点ではキノコとフルーツといった特産品のみが取り上げられるに留まる。「買いたい」はあっても、「訪れたい」「住みたい」に関わる魅力発信はなされていない。

### 魅力度と知名度向上の論点 2 “信州ブランド”での中野の位置づけ

#### ①“信州”ブランドを活かせるのか

「信州」という地域呼称がつくことによって、さまざまなイメージが喚起される。“信州”が持っている多角的な魅力を使わない手はない。ただし、長野県内でみれば、信州ネーミングがすでに広く使用されており、その中で信州中野をどのように訴求力のある独自性(ユニークさ)で発信していけるのかが問われている。

- 1) **食文化** ... 信州グルメ=そば、信州牛、栗スイーツ、野沢菜などがメディアで取り上げられることが多いと思われるが、ここには中野産は入ってこない。
- 2) **自然** ... 物的な消費に代わり、経験価値が重視される“コト消費”というトレンドみられる。それを体現するアトラクションとして「信州アクティビティ」(山の絶景、サイクリング、トレッキング)などが盛んになっているが、こちらでも優位性があるのかどうか。
- 3) **住みやすさ** 中野市が長野県 1 位ということ自体は誇れるが、それを広くアピールできていない。長野県で住みたい地域イメージ調査では、「松本」「長野」「上田」などが選ばれている<sup>6</sup>。

信州と言えば、〇〇といった際に、中野市の魅力的な資源が連想的に想起されるのか。信州

---

時代以降 130 年余りの雑誌を所蔵している公益財団法人で、日本初の雑誌図書館。雑誌記事索引データベースを作成しており、主な所蔵雑誌の記事を検索することができる (大宅壮一文庫について <http://www.oya-bunko.or.jp/guide/tabid/66/Default.aspx>)

<sup>3</sup> 東洋経済 (2017) 『都市データパック 2017 年版』

<sup>4</sup> 長野で 2 位は駒ヶ根市 (全国 45 位) という結果。15 指標それぞれについて平均値を 50 とする偏差値を算出し、それらを平均して「安心度」「利便度」「快適度」「富裕度」「住居水準充実度」の部門ごとの評価、および総合評価を行っている。県内他市は、長野市 256 位、松本市 244 位、上田市 122 位、須坂市 261 位、飯山市 190 位という結果である。

<sup>5</sup> NPO 法人ふるさと回帰支援センター「ふるさと暮らし情報センター」の来場者に対するアンケート調査結果より。NPO の Web にて、2015~2017 年度までの結果が公開されている。

<sup>6</sup> 長野県にて賃貸住宅居住者を対象にした SUUMO の調査「県内で住みたい市郡」では、長野を僅差で抜いて「松本市」(58.7%) がトップで、長野 (49.0%)、上田 (23.6%)、安曇野 (21.6%)、佐久 (12.4%) と続いている。中野市は 10 位以内にランクインしていない。



ブランドとして先行している諸地域と比べると、中野市が持っている地域資源では、どのように勝ち抜けていけるのか。

## ②名称変更が対外的な知名度や魅力度アップにつながるのか

信州～というネーミングを後発組として名乗っても、それだけでは意味がない。イメージ戦略だけではなく、実体（エビデンス）が伴わなければ、一時的な話題喚起で終わってしまう。「住みやすさ」長野県 1 位ということはアピール材料にはなるが、それを政策的に裏付けていけるのかどうか。信州中野という呼称でのブランドイメージ構築が必須になる。

メディア露出の結果考察を踏まえると、中野市が現時点で持っているリソース（地域資源）だけでは話題喚起や継続ができるとは想像しにくい。市名変更することで、メディアでコンスタントに取り上げられるか、ひいては知名度向上、魅力 PR につながるのかどうかは未知数である。

## 魅力度と知名度向上の論点 3 他地域事例からみる市名変更とその効果（影響）

### 市名変更してメリットがあった事例

そもそも近年、自治体名称変更事例がないので、影響有無についてはわからない。

### ◆平成以降市町村名変更は 3 件のみ

以下の『読売新聞』記事（2017 年 6 月 10 日）参照。

---

総務省によると、市町村名の変更は、都道府県が同意し、条例案が市町村議会で可決されれば可能だ。トヨタ自動車の本社がある愛知県豊田市は、かつて挙母（ころも）市だったが、1959年に市名変更した。平成以降は、読み方などの細かな変更を除くと、北海道の利尻富士町（旧東利尻町）、福島県の会津本郷町（旧本郷町）、東京都の新島村（旧新島本村）の3例あるという。

2012年には、財政難の大阪府泉佐野市が、新市名の命名権売却を検討したが、企業などの買い手が付かず断念。都道府県では、滋賀県が15年、「近江県」などへの変更について県民調査を実施したが、「必要なし」が8割超だった。

### ◆市名変更に関連する最近の事例

兵庫県篠山市では、市名を「篠山市」から「丹波篠山市」へとする改名案が浮上している。事の発端は、

#### 「市名を丹波篠山に」 商工会・農協・観光協が要望 / 兵庫県

篠山市商工会と丹波ささやま農協、丹波篠山観光協会がそれぞれ、篠山市の市名変更を検討するよう求める要望書を酒井隆明市長と渡辺拓道市議会議長に提出した。新市名を「丹波篠山市」にすることなどを要望しており、酒井市長は「市民の声を聴くなどして判断したい」と話した。

要望書では、2004年に旧氷上郡6町が合併して丹波市ができて以来、篠山市を含む丹波地域と丹波市が混同され、篠山を丹波市の一部だと誤解する人もいるなどと指摘。丹波市と明確に区別できる名称にすべきだとした上で、丹波栗や丹波黒豆などブランド力がある「丹波」の名称を新市名に盛り込むよう求めた。

市名変更をめぐるのは、12年に「篠山市の市名を考える検討委員会」が市に設置されたが、「適切な時期に検討を行うことが望ましい」などとして結論を出さなかった。

（2017/02/10 朝日新聞朝刊より記事を抜粋。）

その後の展開（神戸新聞，朝日新聞記事から編集）

- ・篠山市議会政策討論会で市名変更の要望，検討の方針決定 2017/06/10
- ・篠山市の市名変更問題 「互いの思い尊重して」 市会議長，異例の会見 2017/06/27
- ・市名変更へ「市民の会」篠山で発足 署名活動開始へ / 2017/07/14
- ・市名変更，反対相次ぐ 篠山，意見交換会に50人 2017/08/31
- ・篠山市が経済効果を調査，年度内にも公表 2017/10/04
- ・篠山市名変更「待った」 反対市民ら団体結成 賛否の意見募る 2017/10/04
- ・市名変更8439人賛同 篠山市長に署名提出 市民の会 2017/11/21
- ・篠山市に1億円寄付 匿名で「市名変更に使って」 2017/12/26
- ・市名変更問題で市長答弁 「市民合意努める」 篠山市会一般質問 2018/03/15
- ・篠山市名変更で中間報告 企業の8割「負担」「市が商標取得を」市会特別委 2018/03/21

○神戸新聞が篠山市名称変更問題アンケート調査結果を地域欄で報道。電話帳から無作為抽出した市民や街頭で応じてくれた計130人を対象に実施。「市名変更に対しては，賛成34.6%，反対39.2%となった。一方で「どちらでもない」が26.2%を占め，市民全体に議論が浸透していない現状が浮き彫りに。」（神戸新聞，2017年9月22日）。

○篠山市では，市名変更した場合の経済波及効果について調べる方針。市名を変えることで，京阪神などの周辺からの観光客がどれだけ増えるのか，篠山を知らない首都圏の人たちの行動にどう影響するか，などを市場調査会社に委託する（神戸新聞，2017年8月23日）。

#### ◆2016年以前の事例

動きが見られたのは以下の通り。いずれも市名変更は実現していない。新聞記事のレベルでは，下記4事例についてはその後，目立った動きは見られない。

○上越市が市名変更検討の動き 北陸新幹線の新駅名と連動＝新潟

／ 2009/05/29 東京読売新聞

- ・市名みんなで考えて 認知度低い「上越市」このままでOK？ あす公開討論 /新潟県
- ／ 2007/10/27 朝日新聞

○「富士山市」に改名を 富士吉田商議所が提言書 市は慎重な姿勢＝山梨

／ 2008/08/18 東京読売新聞

○大田市存続を市長が表明 市名変更問題，完全に決着＝島根

／ 2008/01/17 大阪読売新聞

- ・市名「大田市」で決着へ 特別委「住民の意見尊重」 20日に議会報告 /島根県

／ 2007/12/18 朝日新聞

- ・島根・大田市：幻の「石見銀山市」再燃 一昨年合併，市名変更「世界遺産登録で検討」

／ 2007/08/15 毎日新聞

○山陽小野田，財政難で市名変更見送り 市民会議が白井市長に提言 /山口県

／ 2005/09/22 朝日新聞

既存自治体が名称変更した事例は極めてまれであり，それだけに難事業といえる。地域内での合意形成に至らずに，市名変更が実現していないケースが多い。

## 魅力度と知名度向上の論点 4 市名についての地域住民の意識

### ①中野市の市名変更をめぐる過去の投票結果から

- 1) 2004年 中野市と豊田村合併時 (27,541人) 中野市 67.2%, 信州中野市 25.2%, ふるさと市 7.6%
- 2) 2014年 第2次市総合計画策定時  
(一般市民 1,151人) 中野市のまま 67.9%, 信州中野市に変更 25.0%  
(高校生 1,273人) 中野市のまま 68.4%, 信州中野市に変更 11.4%
- 3) 2017年「中野市民満足度調査」(681人)での市の名称についての意見  
中野市のままでよい 49.0%,  
市の名称は中野市, 通称名(愛称)は「信州中野」「信州なかの」でよい 28.5%  
信州中野市に変更した方がよい 18.2%  
その他の名称に変更した方がよい 0.6%
- 4) 年代別にみた意識差でも, 若年層の方が市名変更を望んでいない傾向。

市の名称について単純に聞いた場合, 市民感情として, 市名継続の声を望む声は 2/3 以上のマジョリティを継続的に確保。市民意識としては醸成されていない現状。

### ②市名変更賛成, 反対の意見内容

「中野市民満足度調査」(2017年実施)での自由記述データからの知見  
市名変更賛成, 反対, 妥協案それぞれで挙げられている理由を整理した。

#### ○変更へ賛成 (記述人数=39人)

長野県にある市ということがわかる(17), 東京や他地区の中野と区別したい(15), 信州というよいイメージが付加される(10), 観光地としての認知度が上がると思う(3), 声に出して言いやすい(3), 地域産物が売れやすくなる(2), 信州なかの市に変更する(1), 現時点では最もふさわしい(1), 愛称のままだと効果が薄い(1)

#### ○市名維持, 通称名併用 (記述人数=22人)

県外では通称名使用した方がよい(7), 今のままでよい(6), 通称名で特産物のブランド化やPRを図ればよい(4), 長野県にある市ということがわかるから(3), 市名変更による費用対効果が疑問(2), 変更による手続きが面倒(2), 知名度を上げる方策をとる方が先(1), 中野市でもそれなりに知名度がある(1), 東京や他地区の中野と区別したい(1), 長野県内で, 信州を付けた地名はない(1), 駅名でなじみがある(1), 信州=長野県なので, 長野県信州中野市はおかしい(1)

#### ○変更へ反対 (記述人数=47人)

愛着がある(13), 簡単でよい(8), 言い慣れている(8), 「信州中野」の呼称を活用する(7), 「信州中野」では名前が長い(7), 今さら変更する必要がわからない(7), 名前だけ変えても意味がない(6), 地域資源の活用やブランド化で知名度を上げる(4), 費用がかかる割に効果が少ない(4), 市の知名度を上げるべき(3), 標札, 書類を作り直す必要がある(2), 長野県内では信州がつくのは中野市しかない(1), 信州新町と区別がつけづらい(1), 信州の知名度が高くない(1), 信州を代表した市ではない(1), 「信州なかの」がよい(1), 市の名称を意識していない(1)

#### [ その他名称へ変更 ] (記述人数=2人)

ひらがなを使用した「信州なかの市」がよい (2)

**【結果からの考察】**自由回答を見る限り、挙げられている理由は情緒的、印象論が中心である。例えば、市名変更反対意見は、心理学（社会心理学）分野でいうところの「現状維持バイアス」と呼ばれるものの典型である。一方、市名変更賛成意見も希望的観測に基づくものが中心である。

アンケートそのものは、市民の意識を測定しえる科学的ツールである。しかし、単純に「市の名称はどのように思いますか」と問われた際の回答であり、調査対象者が様々な条件を比較考慮、勘案した上での“熟慮”の上の判断ではないことに留意したい。市名変更の熟議がなされていないまま尋ねられれば、このように回答されることは容易に想定されうる。

「熟議」…「よくよく評議すること」（『広辞苑』）<sup>7</sup>。「市民のひとりひとりが議論において対立する意見を真剣に吟味すること」（Fishkin, J.S. 2009=2011：60）

「熟議民主主義」…「人々が対話や相互作用の中で見解、判断、選好を変化させていくことを重視する民主主義の考え方」（田村哲樹，2008：ii）

### 3. これからのために

“何もしない”という選択がよいとは限らない

地域の魅力発信をするシティプロモーションに取り組む自治体が増え、競争激化。何もしなければ、埋没する恐れがある。CPの一環として取り組むならば、市名変更についての地域内外の意識をいかに高めていくのかが問われる。市名変更するにしても、しないとしても、地域の魅力の内外への発信は必要であり、その際に何をアピールすべきなのか、について考えを深めておく必要あり。

#### 材料を集めての熟議の必要性

信州中野市に市名変更するメリットは何か。メリット > デメリットとなれば実施すべき。どのような効果が期待できるのか。果たしてそれは達成可能なのか、などといった根拠になるデータをもとに検討すべきである。熟議を重ねたうえでの選択をする。出来るだけ多くの材料・データを揃えて“みえる化”し、情報共有を進める。異なった見解を持つ人を論破するという形ではなくて、さまざまな立場の違いを認めつつ、意見共有と相互理解を進めるために、今回のようなシンポジウムを開催していくことが目指される。

#### 【レファレンス】

Fishkin, J. S. *When the people speak: deliberative democracy and public consultation*, Oxford University Press, 2009（＝曾根泰教監修，岩木貴子訳 2011 『人々の声が響き合うとき——熟議空間と民主主義』早川書房）

田村哲樹（2008）『熟議の理由 民主主義の政治理論』勁草書房

<sup>7</sup> 類似の意味合いを持つ審議、評議、討議も全て英語の *deliberation* に由来する。訳がわかれる理由は、その *deliberation* に討論 (*discussion*) と考慮 (*consideration*) の二つの側面がある。*deliberation* の語源は、ラテン語の「天秤などで重さをはかる」ことに由来するという。「重さをはかったり、熟慮したり、慎重に議論したりすることであるとまとめることができるだろう」（曾根泰教「監修者あとがき」前掲書 Fishkin, J. S. 2009=2011, pp316-317）

【参考】中野市を取り上げたテレビ番組 ※図左欄の放送日と放送時間（単位：秒）

放送	局	番組名	コーナー	番組データ
2018/ 1/27 790	BS フジ	わがまま！気まま！旅気分	極上体験！北信州スノーリゾート	長野県中野市。日本土人形資料館へ。土人形の絵付け体験をした。信州なかの観光協会を紹介。「有彩穠石 吟」へ。旅を振り返った。出演者:小宮山瑞季、ユージ
2018/ 1/26 322	テレビ朝日	スーパーJチャンネル	贅沢さんまい！信州バス旅・和牛すき焼き&リンゴ詰め放題・外国人に人気のワケは？	超お得！冬の贅沢バスツアーを特集。外国人観光客にも人気の贅沢さんまい信州の旅「いい湯だな♪湯けむりの「地獄谷野猿公苑」スノーモンキーと信州りんご和牛すき焼き&パワースポット信州善光寺」(HIS)に同行。新宿からバスで長野県中野市へ。精肉店直営レストラン「ビアンデ信州中野店」ではりんご和牛割汁を使ったすき焼きが食べられる。さらにシナノゴールド、シナノスイート、サンふじの袋詰め放題も。次に山ノ内町にある地獄谷野猿公苑へ。サルが温泉に浸かるのは世界でもここだけだと言われ、これを求めて外国人観光客もバスツアーに参加するという。ツアーの最後は信州「善光寺」(長野市)へ。仲見世通りなどを60分間散策する。
2017/ 10/28 1375	フジテレビ	もしもツアーズ	秋の味覚を楽しもうツアー	週末のお得な楽しみ方をお届けするおでかけバラエティ。日本一の秋の味覚を楽しもうツアー。長野県中野市はエノキタケ生産量日本一、シャインマスカット出荷量日本一。リンゴ博士の農園。出演者:福原遥、キャイ〜ン他
2017/ 10/28 1016	テレビ朝日	食彩の王国	信州の恵み 天然キノコ	今回のテーマは「キノコ」。永田徹が長野県を訪問。キノコを収穫する。JA中野市農産物直売所オランジェの映像あり。キノコ工場やキノコ農家を取材する。出演:永田徹他
2017/ 10/5 142	フジテレビ	めざましテレビ	きのこのおいしい季節です・長野県中野市産きのこ	長野県中野市産のエリンギ、ぶなしめじ、茶えのき、えのきを紹介。メカジキのきのこたっぷり甘酢あんかけ、なめこの中華スープを試食。
2017/ 4/4 313	NHK総合・東京	おはよう日本	春“始まりの季節”に・春の宝石？さくらんぼの出荷	長野・中野市ではハウスでさくらんぼを育て時期を早めて収穫されている。入学や入社のご褒美として人気があるという。ハウスで日当たり、温度、湿度を管理することで甘みや見た目も美しいさくらんぼができる。収穫されたさくらんぼはグレードで分けられ最高級の商品が選ばれている。箱詰め作業を紹介。さくらんぼ農家・徳武英明のコメント。(中継)長野・中野。
2017/ 4/1 425	BS日テレ	徳光和夫のシニア時代を楽しく過ごそう！	失敗しない田舎暮らしの秘訣	シニア世代の切実な悩みを、豊富な知識を持ったシニアライフのスペシャリストにズバッと解決してもらおう。田舎暮らしのスペシャリストは松本すみ子。田舎暮らし・上級編:完全移住を映像で紹介。移住者・賀川一枝、川島直樹・幸子夫妻のコメント。山梨県都留市、長野県中野市の映像。
2017/ 3/20 41	TBSテレビ	ひるおび！	ルビーのような輝き・ハウスサクランボ初出荷	長野県では、真っ赤に色づいたハウスサクランボの出荷が始まった。JA中野市の出荷センターでは、去年より1週間余り早くハウスサクランボの「高砂」、「佐藤錦」の2品種計26キロを初出荷した。出荷されたサクランボは、首都圏などで1箱1万～2万円で販売される見込み。生産者のコメント。JA中野市(長野・中野市)の映像。

2016/ 10/12 1380	NHK 総合・ 東京	ひるブラ	肉厚コリコ リ!“神の キノコ”長 野・中野市	長野県中野市にあるキノコ栽培工場から中継。栽培のコツを解説する。キノコを使った料理を試食する。出演・岡本玲、勝吳州和、高山哲哉
2016/ 9/23 479	TBS テレビ	あさチャ ン!	<あさトク > 沢松奈 生子が行く 日帰りバス ツアー・長 野の秋の 味覚を食べ つくす	沢松奈生子が旅行会社・HISでこの秋人気No. 1の日帰りバスツアーに参加。長野で秋の味覚を堪能。朝東京・新宿を出発。午前11日に長野・小布施町にある小林農園に到着。栗拾い、リンゴ狩り、リンゴ食べ放題を体験。次に向かったのはピアンデ信州中野店。大麦玄豚を使った玄豚すき焼きや松茸ご飯、松茸茶碗蒸しを食べた。玄豚のすき焼きと松茸ご飯は食べ放題。バスに戻る際、エリンギ、しめじ、エノキ、みこっ子かりんとうがお土産として配られた。その後小布施の町へ。6店分の試食引換券が洒びられた。風味堂では最中に栗あんが詰め放題。おぶせ庵煎餅堂では栗煎餅が、サンクゼールワイナリー小布施店ではワインの試食が、おぶせ庵ではソフトクリームが、マロナップルではフルーツジャムヨーグルトが楽しめる。最後に豊野温泉りんごの湯へ。小林農園・小林一広、ピアンデ信州中野店・太田誠一のコメント。HINO, HIS, JA中野市, JA全農長野, HOKTOのロゴ。
2016/ 8/26 90	テレビ 朝日	スーパ ーJチャ ンネル	異変・桃や リンゴどこ へ... 猛暑 が旬の味 覚直撃	果物などの出荷時期が例年に比べ早い。原因は日照時間が長く生育が早まったため。長野を代表するモモ「川中島白桃」も例年収穫のピークの時期だが、畑にはほとんど見当たらない。JR中野市農産物産館 オランチェ・黒岩春樹館長、生産者、一般人のコメント。
2016/ 7/9 57	NHK 総合・ 東京	おはよう 日本	長野県中野 市・すもも の収穫盛 ん	長野県はすももの出荷量が全国で2番目に多く県北部・中野市の畑では大石早生という品種が収穫の時期を迎えている。この時期のすももは主に長野県内や関西地方などに出荷される。すももはこの後、他の品種も収穫を迎え9月頃まで出荷が続く。すもも農家のコメント。
2016/ 7/7 401	フジテ レビ	# ハイ __ポー ル	ダイバイヤ ー	至高のメイドインジャンソンを紹介。長野県の逸品を紹介。長野市・信州の雪村そば。中野市・贅沢プレミアム7りんごジュース「黄金の林檎」。プレミアムトマトジュースSAKURA。信州ナチュラルフーズのジャッキーとサラム。信州玄米コーヒー。
2016/ 6/4 67	日本 テレビ	news e very. サ タデー	長野・両陛 下・「故郷」 ゆかりの 場所を視察	あす開かれる全国植樹祭に出席するため新幹線で長野・JR飯山駅に到着された天皇陛下と皇后陛下が高野辰之記念館(中野市)を訪問された。高野辰之は文部省唱歌「故郷」や「春の小川」などの作詞者で国文学者。両陛下は大正時代の教科書に載っている「故郷」の楽譜を見ながら「きれいな節でございますね。ふるさと、歌い継がれてね」など口にされた。両陛下はあす全国植樹祭の式典に出席されたあと、東日本大震災翌日に起きた長野県北部地震で大きな被害を受けた栄村の被災者らと懇談される予定。
2016/ 3/3 549	テレ ビ東 京	昼めし旅 ～あなた のご飯見 せてくだ さい!～	長野県中野 市「あなた のご飯見 せてくだ さい」	地元の人のお昼ご飯を訪ねる旅。土びな人形。職人の焼うどん。出演・庄司智春声の出演・渡部陽一